

KAGAWA アンバサダーからのお便り～依田順子さん～

2023年12月1日、私たち家族の展覧会 “The 3 Yodas”展の最終日にマサチューセッツ州から旧友がやってきました。約40年ぶりの再会です。

ADティンカム (AD Tinkham), 通称ADは、私の主人、依田寿久が1966年横浜港からアメリカに渡った際、アパート探し、医者を紹介、学生ビザの更新手続きなどなど、親切に手伝ってくれたニューヨークでの初の友達でした。

1969年、3年遅れてニューヨーク入りした私は、主人と共にADの生まれ故郷のマサチューセッツ州、ニュー・ベッドフォードを訪問、ADの母の家でお世話になりました。ADの車で母の家に向かう途中、ADが車を止めて白い柵に囲まれた愛らしい家を指差して、「ハーマン・メルヴィルが住んでいたことのある家だよ」と言った時には驚きました。私が高松一高時代に繰り返し読んだ「白鯨」(Moby・Dick)の作家、ハーマン・メルヴィルなのです。

ADの生まれ故郷、ニュー・ベッドフォードについて、全く不勉強だった私は、元、小学校の先生だったというADの母からニュー・ベッドフォードの豊かな歴史の一端を学び、ADの車で船の舳先型の説教壇のある “Seamen's・Bethel” (教会) 他、今も残っている「白鯨」にゆかりのある名所を見学しました。

又、ニュー・ベッドフォード捕鯨美術館 (New・Bedford Whaling Museum)では、1825年から1860年までニュー・ベッドフォードハーバーが世界一の捕鯨の港であった事実を展示されていた膨大な資料から知ることができました。

捕鯨美術館を観終わった時、女性の係員が話しかけてきました。

「マンジロー・ナカハマを知っていますか？」と。

私は一瞬、ドギマギしたものの、「マンジロー・ナカハマ？ イエス、ジョン・マンジロー！、知ってます。日本人で初めてアメリカ大陸に渡った人です！」と、大きな声で答えました。

係員は、土佐清水の14歳の漁師、マンジロー・ナカハマがアメリカの捕鯨船、ジョン・ハウ



Seamen's Bethel



Seamen's Bethel の内部

ランド号でここニュー・ベッドフォードに入港し、船長の住まいのある隣町のフェアフェーブ
ンに住むことになったことなど、その経緯を詳しく話してくれました。私たちは、そのフェア
フェーブンの街をADの車で何度も通過していました。

実は私たちは、捕鯨美術館見学の前日にプリマス・
ハーバーを訪れ、2代目のメイフラワー号を見学した
ばかりだったのです。ニュー・ベッドフォードからケ
ープコッドの先端のプリマスまで1時間半ぐらいのド
ライヴだったことを思い出したとき、私は大きな衝撃
を受けました。



Mayflower II

1620年11月21日、イギリスからのピルグリムがメイ
フラワー号でプリマス・ハーバーに到着し、プリマス・ロックにその第一歩を踏み出したの
と、1843年5月7日にマンジロー・ナカハマが日本人として初めてアメリカ大陸に上陸したニ
ュー・ベッドフォードが車でたった1時間余りしか離れ
ていないニューイングランドの地であったとは。

さらに、ADの奥さんからADの父方と母方のご先祖
がメイフラワー号でプリマスハーバーにやってきたピ
ルグリムであったと聞きました。1899年に設立され
たマサチューセッツ州 ソサエティー オブ メイフ
ラワー ディセンダント（子孫）にとって ADティ
ンカムは、貴重な存在なのだ。



AD Tinkham and Yoda family,
December 1st, 2023

3泊4日のADの依田家滞在は、あっという間に過ぎ、
マサチューセッツに帰って行きました。



依田 順子（よだ じゅんこ）さん

1969年にニューヨークに移住して以来、ニュー
ヨーク、パリ、東京、香川等で個展やグループ
展を多数開催。大原美術館、高松市美術館、The
Essl Collection（オーストリア）等に作品所蔵。
ニューヨーク香川県人会会長。

◇KAGAWA アンバサダーについて

香川の魅力を世界へ発信するとともに、本県の諸課題に対する情報提供、活動、提言等を行っ
ていただく大使です。主に世界を舞台に活躍している香川県出身者や県にゆかりのある方で、各
界から候補者の推薦を受け、識者による選考後、知事が委嘱しています。

◇KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々に KAGAWA アンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めて
いただくことを目的に、世界を舞台に活躍されている KAGAWA アンバサダーの方々から在住国
や御自身の活動等について御紹介いただくものです。